

令和3年4月23日

徳島医療福祉専門学校  
校長 廣田 茂美 殿

徳島医療福祉専門学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 市川 公雄

## 学校関係者評価委員会報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 市川 公雄 (勝浦町教育委員会教育長)
- ② 山口 寛 (本校非常勤講師)
- ③ 栗山 美子 (令和2年度保護者会役員)
- ④ 佐藤真知子 (令和2年度保護者会役員)
- ⑤ 岩朝 利雄 (三溪同窓会役員)
- ⑥ 東田 武志 (徳島県理学療法士会理事)
- ⑦ 細川 友和 (徳島県作業療法士会副会長)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和2年8月30日 (会場 徳島医療福祉専門学校 別館会議室)
- 第2回委員会 令和3年3月23日 (会場 徳島医療福祉専門学校 別館会議室)

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり。

以上

I 令和2年度重点目標について

1 重点目標①：「設立の理念や教育目標を遵守した学校運営及び教育活動を継続するとともに、より安定かつ持続可能な学校運営の基盤を強化する。」について

理念に沿った教育活動の展開により、地域社会貢献しうる療法士の養成に努めている。  
コロナ禍における緊急事態遭遇時の対処には設立理念に立ち返ることで方向性が見えてくるのではないかと。

2 重点目標②：「少子化並びに大学指向者の増加に対応できる学生募集（オープンキャンパス、進学ガイダンスを含む）並びに入学試験制度の改正を図るとともに、財務体制のスリム化を一層促進する。」について

コロナ禍におけるオープンキャンパスは、県内学生の招致について人数制限等工夫が見られたのは良かった。さらに県外学生への参加方法等の工夫が必要であると思われる。  
入学試験において基礎学力と適性を見極めは大切なため、現行の方法による入学試験での引き続きの検証が必要と思われる。

3 重点目標③：「学校評価機構（学外第三者評価機構）、学校関係者評価委員会等を軸に、教育基盤の強化を図るとともに、教育の質並びに透明性の更なる向上を図る。」について

教育機器・施設設備等の充実が順調なのは良いことだと思われる。  
指定規則変更への対応もスムーズに行われている。現状に留まることなく、引き続き課題解決に努めてほしい。  
PDCAサイクルに基づいた学校評価の実践・継続により更なる教育力の向上を期待している。

4 重点目標④：「教職員のキャリア教育を積極的に推進し、教育・学生指導等の高質化を促進する。」について

学生の資質の向上のためにも教員の教育力・指導意欲の向上は欠かせない。学士号・修士号さらには認定療法士の取得に向けた積極的な取り組みに努めてほしい。ただ、資格取得の労力は大きいので何らかのインセンティブを検討されたい。

## II 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像について

学校の教育理念は学園に定着してきており、卒業生に対する社会・臨床現場で信頼も高い、何より求人数の高さがそれを裏付けていると思われる。

学園で習得した知識・技術だけではなく、心理面でのサポートも踏まえ、患者のために自分には何ができるのかを常に考えることのできる療法士になってもらいたい。

### 2 学校運営について

外部の意見もバランスよく取り入れ、社会の流れや期待を的確にとらえた学校運営が出来ている。

### 3 教育活動について

年度当初の緊急事態宣言により休校や通常授業が困難となったようだが、オンライン授業・感染防止策に留意しながらの対面型授業が早期より再開されたのは良かった。

指定規則の改正により、臨床実習の形態の変更が大きいと思われる。今後の為、実習施設や担当者としっかりと連携し、良い実習指導者を育成して頂きたい。

### 4 学修成果について

十分な学修成果が得られている。

特に国家試験の高い合格率は貴校の魅力であり、今後もこれを維持してほしい。

授業評価のアンケートの結果からも学生の意識の高さがうかがえる。

就職率も良いが、今後は希望施設に就職できる確率を高めるため就職活動の早期化が必要ではないかと考える。

### 5 学生支援について

学生への情報伝達の方法、複数回の個別面談の実施、スクールカウンセリングシステム等きめ細かな学生支援が出来ているように思われる。

実際の教育場面では教員と学生間の信頼関係が根本にあるように思われる。

コロナ禍で経済的に困窮している学生への支援は公的なものだけでなく、学園独自の支援もあり高く評価できる。ただ、財務状況を精査しつつ慎重な検討も必要と思われる。

### 6 教育環境について

法令の要求水準を上回る内容で教育機器備品が整備されており、更にインターネット環境・コロナ対策等も踏まえ教育環境がより整いつつあると感じた。しかし本年は対外的なイベント・ボランティア活動等の制限が多かったようなので、学生の大切な思い出となる活動等は代替等含めて可能な限り開催してもらいたい。

これからの入学生たちがどのような ICT 関係の環境で学んできたかを注視し、それに応じた環境の整備も必要と考える。

## 7 学生の募集と受入れについて

コロナ禍の高校生にとって、卒業生や現役学生の生の声が聴けるオープンキャンパスを形態を変えながらも開催できたことは良かった。今後もニューノーマル時代のオープンキャンパスや学生募集の展開が必要であると考えます。

新しい方法として、在校生からアイデア等募ったり、学生目線の動画等の作成案を考えてはどうか。

## 8 財務について

財務諸表は良好であり、財務情報や事業報告書は公開され、透明性が高い。  
健全で適正な運営が行われている。

## 9 法令等の遵守について

私立学校法等の学校運営に直結する法令の改正が続いており、適時に学園諸規則、学事諸規程を改正していくこと、そしてこの概要を役員、教職員が全体で共有していくことが大事であると考えます。

## 10 社会貢献・地域貢献について

理学療法士会・作業療法士会やそれぞれの協会組織を通じての役割遂行は大きな社会貢献になる。

現状の社会貢献・地域貢献活動は、減少はしているものの今後充実して行くことが大切であると思われる。

高校生キャリア教育や将来の職業選択に大きな影響を与えることから可能な範囲で講師派遣などを継続してほしい。

さらには中学生・小学生対象の交流活動等の開催を考えてはどうか。

## III 特記事項

新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態により、例年の学内イベント・学外臨床実習・広報活動・オープンキャンパス等が軒並み中止や規模の縮小・形態の変更を余儀なくされ、思うような活動が出来ない中、病院施設との日頃からの関係作り、早期のオンライン関係の構築・オンラインでの就職活動等環境の整備等により例年並みの教育活動・就職活動・国家試験の合格率を維持することが出来ていると思われる。これ以降のニューノーマル時代となることを基盤に置き、絶えずチェックを掛けながら、自信を持って学校運営に当たってほしい。